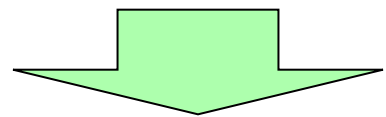


北見市(北海道ブロック)

【計画期間 23年3月～28年3月】

・ 明治～：明治30年に本格的に開拓が始まり、同44年の鉄道開通以降鉄道網が整備され発展していく。
 ・ 昭和～：ハッカや玉ねぎ等の農業をはじめ各種産業が発展。昭和54年に人口10万人を突破。オホーツク圏の拠点都市となっている。

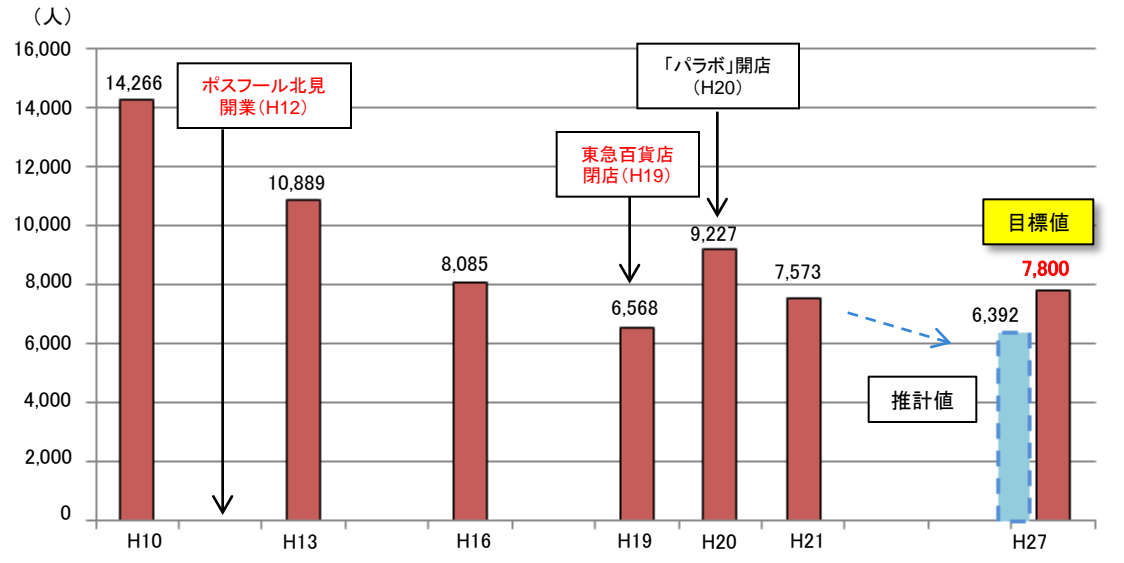
- 車社会の進展に伴い地価の安い郊外に人口が流出。併せて、郊外型大型店が進出。
- 平成元年と平成21年の人口が、北見市全体が3.5%減に対し中心市街地は27.2%減となる等落ち込みが顕著。
- 中心商店街のにぎわいも喪失。平成19年には、商店街に立地していた東急百貨店が閉店。20年に商業施設として再オープンしたが、依然厳しい状況となっている。



- 週末歩行者通行量[金・土・日の合計]
 H10: 14,266人 → H21: 7,573人 (▲46.9%)
- 中心市街地の居住人口
 H1: 6,071人 → H21: 4,422人 (▲27.2%)

目標	指標	現況値	目標値(H27)
都市機能の充実によるにぎわい創出	週末歩行者通行量(金・土・日の合計)	7,573人(H21)	7,800人
居住環境の整備等によるまちなか居住の促進	居住人口	4,422人/年(H21)	4,500人/年

【週末歩行者通行量[金・土・日の合計(5地点)]の推移と数値目標】



- 市民のニーズに応えた「安全・安心」等住みやすい居住環境を整えた中心市街地をつくる。
 ⇒ 主要事業: ①北見赤十字病院整備事業、②借上市営住宅整備事業、など
- 駅前を中心に都市機能を充実させ、多くの人々が行き交うにぎわいある中心市街地をつくる。
 ⇒ 主要事業: ③まちきた大通ビル整備事業、④駅前広場等整備事業、⑤市立中央図書館整備事業、など

北見市中心市街地活性化基本計画の事業概要

居住環境の整備等による まちなか居住の促進

○北見赤十字病院整備事業 (①)

現在の病院の立地場所（青いエリア）から隣の現市庁舎立地場所（赤いエリア）へバリアフリーや高度医療に対応した**新病棟を新設、移設**を行い、居住環境向上を図る。

新病棟(イメージ)



※新設、移設に伴い、現市庁舎は取り壊し、市の機能は③と⑥の施設に入る。また、現病院の跡地は駐車場として利用する。

○借上市営住宅整備事業 (②)

子育てファミリー等**世帯向けの民間賃貸住宅を市が借り上げる**ことにより、居住しやすい環境を整える。

○市庁舎整備事業 (⑥)

市の窓口業務以外の部局が入る市庁舎を新設する。当該庁舎には、防災センター等災害時に支援機能を発揮する市の部局も入るため、「安全・安心」の向上が図られる。

○小公園整備事業 (⑦)

既存の公園を拡張し、市民の憩いの場としての機能のみならず、災害時における避難機能、北見赤十字病院との連携等防災機能を強化した公園とすることで、「安全・安心」を向上させ、居住環境の改善を図る。

子ども総合支援施設(イメージ)



○子ども総合支援施設整備事業 (⑧)

市街地外にある老朽化した施設を新設移転する。新設に際して、既存の子どもの発達支援センター機能に加え、子育て支援機能を合わせた子どもの総合支援施設とすることで、子育て環境を充実させる。

計画区域: 約117ha

まちなか居住促進ゾーン

高校

小学校



にぎわい創出ゾーン

都市機能の充実による にぎわい創出

○まちきた大通ビル整備事業 (③)

東急百貨店跡地に再オープンした「パラポ」に**市の窓口業務機能を移転**させることで賑わいの創出を図る。

○駅前広場等整備事業 (④)

立体駐車場の整備、駅前広場とまちきた大通ビルを結ぶ通路をカバードウォークにする等**快適性を向上**させることで**駅周辺利用者を増やす**ことで賑わい創出を図る。

新駅前広場(イメージ)



○まちなか賑わい創出事業

空き店舗を活用したチャレンジショップの設置、地産地消を目的とした朝市の定期開催、学生のプラスバンド等によるコンサート開催等様々な新しい取り組みにより賑わい創出を図る。また、従来からの市の伝統的なお祭りや連携を図る等既存イベントも積極的に活用する。

北見厳寒の焼き肉まつり(2月開催)



○市立中央図書館整備事業 (⑤)

中心市街地外にある老朽化した図書館を駅周辺に新設移転することにより、交通弱者である高齢者等も含め多様な市民に積極利用され、これにより賑わい向上を図る。



市立中央図書館(イメージ)